

## 放射性同位元素研究支援分野の教育研究支援体制について 分野長 平田敏文

放射性同位元素研究支援分野は、自然科学研究支援開発センターの一部門であるが、アイソトープ・放射線関連の学内中枢施設としての役割（学内共同利用研究，教育訓練，放射線の総合的安全管理）はもとより，学外の放射線関連施設と連携した放射線の総合的安全管理・教育を行うことが求められている。このため，平成14年度まで「アイソトープ総合センター」として行ってきた教育研究支援や環境保全業務をそのまま引き継ぎ，より一層充実させて，次に示すような教育研究支援を行う。

（1）研究支援として学内の利用者（利用登録者）のために放射線管理区域内の研究場所および各種の研究機器の提供，利用者の被爆・健康管理および各種の証明書の発行，先端研究のための最新情報の提供と学際的研究を希望する組織活動の促進・コーディネート，学外利用者のための場と機器および技術の提供を行う。

（2）教育活動として，学内の放射線利用登録者の法律に基づいた教育訓練（対象は教官を含む），大学院・学部学生への放射線関連研究の講義・演習や実習，学外の各種の放射線使用業務従事者を対象とした講演会，講習会等の企画・支援，さらに，博士研究員，大学院生の指導を行う。

（3）放射線管理と環境保全業務として，各研究者の利用する放射性物質の管理，廃液等の処理，環境放射線のモニター，利用者の被爆管理，環境保全業務などに関する対外的対応の中心的役割をになう。

（4）全国規模の放射線関連業務への支援・協力として，社会啓蒙活動，全国あるいは地域の放射線取扱主任者部会や研修会などでの指導，全国のアイソトープ施設とのネットワーク作りなどを行う。

（5）研究活動として，教官は独自の研究テーマを設定し，最新の放射線測定技術の開発や新しいRI利用技術の開拓，またRIを用いた生命科学分野の先端研究に従事する。

現在，放射性同位元素研究支援分野の建物施設と安全管理体制はかなり充実したものとなっている。今後，利用者から要望の強い大型先端機器を年次計画で充実させることが課題である。これまで施設を利用している人はもとより，これからアイソトープ・放射線を用いる研究を開始しようとしている人も安心して施設を活用していただけることと思う。